

【事業所名】 養護老人ホーム 大森老人ホーム

## I 事業の年間報告

事業の概要	自己評価	年間の取組と評価	取り組むべき課題
<b>1 利用者への取組</b>			
(1)人権尊重の徹底	B	<p>① 入所者の人格を尊重した事業運営</p> <p>ア. 中期計画事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会 年3回実施</li> <li>・虐待の芽チェックリスト 年2回実施</li> </ul> <p>評価：自己評価は前年とほぼ横ばいで推移。 施設全体の評価では、改善傾向が見られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止に関する研修 年2回（全体は9回）</li> <li>・身体的拘束廃止委員会 年4回 研修2回</li> </ul> <p>イ. 入所者の意思を尊重した支援計画の作成ならび計画に沿った支援を実施。 ウ. 適切なアセスメントを行い入所者個々の状態を把握できるよう努めた。</p>	<p>① 偏見をなくす</p> <p>ア. 障害などあらゆる理由による差別・偏見をなくすことへの理解の周知と研修の実施。</p> <p>イ. 個性を尊重し、多様性を認める施設を目指す。</p> <p>ウ. 相手を理解し互いに尊重し合う関係が築けるよう、随時ケース会議などで確認し適切に支援計画へ反映させること。</p> <p>エ. 施設内外の研修を引き続き実施。</p>
2) 苦情解決・相談体制の整備	A	<p>① 利用者の立場や特性に配慮・推進のため、第三者委員会を開催した。</p> <p>② 相手の心情を理解し、迅速に行動することにより、二次クレームに繋げないよう対応。また、第三者委員へ報告を必要とする苦情はなかった。</p>	<p>①～② 苦情や意見・相談は、適切に対応し、社会性や客観性に基づき公正、円満に解決ができる体制を維持・継続する。</p>
(3)事故防止対策	B	<p>① ヒヤリハット・軽微事故には、朝の申し送りで確認、対応策を検討した。また、毎月1回開催するリスクマネジメント委員会では、前月の発生事案の検証と対策を講じ、重大事故の発生及び再発の防止に努めた。</p>	<p>① 計画にあったICT導入によるリスク軽減のためのシステムの構築は達成出来ておらず、2025年度の課題とする。</p>
(4)サービスの質の確保	A	<p>① 第三者評価を7月から12月に受審した。（評価結果は別紙）</p> <p>② 利用者が安全で快適に過ごせるよう、支援サービスの質の維持・向上の実践。</p> <p>ア. 信頼関係を築くための、良好なコミュニケーションを維持するために、定期的な面談と職員間の情報共有に努めた。</p> <p>イ. 生活を支えるサービスの内容が充実できるよう、様々な行事、趣味活動を取り入れた。</p> <p>ウ. 施設内の安全対策（転倒防止や防災対策）や衛生管理の徹底によりサービスの質を高めた。</p> <p>エ. 健康状態や生活歴、希望を踏まえての個別のケアプランを作成。</p> <p>オ. サービスの質を確保するために、定期的な評価やフィードバックを支援会議で行い改善点を洗い出した。</p>	<p>① 施設サービスの充実</p> <p>※左記ア～オについては2025年度も継続事項とする。</p> <p>また、法人理念を具体的な行動に移せるよう、サービスの基本方針や行動指針を再検討する。</p>
<b>2 職員への取組</b>			
(1)人材の確保・育成・定着	C	<p>① 確保 支援員2名の欠員を様々な方法で補充を試みたが確保には至らなかった。</p> <p>② 育成 組織全体のサポートと個々の成長に対する配慮に努めた。</p> <p>③ 定着 意見や考えが尊重され、都度面談をするなど「自分が大切にされている」と感じる環境を提供した。</p>	<p>① 性別、年齢、バックグラウンドに関係なく受入れる体制にシフトする。</p> <p>② 職員が自ら考え、主体的に業務に取り組むことができるよう業務設計を行い、自己成長を促進する体制の構築。</p> <p>③ 引き続き離職率0%を目指す。</p>
(2)人材の活用	B	<p>① 活用方法 担当制など職員自身の責任と目標を理解しやすくするために、役割を明確にしていった。</p>	<p>① 個々のスキルや特性を理解し、適切な（利用者担当等）配置をすること。</p>

(3)職場環境づくり	B	① 働きやすい環境づくり 気軽に意見を交換できる環境を整え、定期的なミーティングや自己申告に基づくフィードバックなどの他、情報の共有に努めた。 ② オープンな職場環境とハラスマントにも早期に対処できるよう、窓口の役割を周知し、通報しやすさと職場の安全性を高めた。	① 現実空間だけでなく、心理的なサポートや職場の文化・環境も考慮した環境づくりを推進していく。 ② ア. 窓口職員(管理職含む)の研修と相談者が安心できる仕組づくり。 イ. 対応マニュアルの整備(受理～調査～処分の流れ) ウ. 定期的なアンケート(匿名)の実施。
<b>3 地域社会への取組</b>			
(1)地域貢献	A	① 食事サービス【ホーム DE ランチ】の再開。(毎週金曜日・参加者延525名) ② 利用者とともに近隣の小・中校生の登校見守りボランティアや公園の地域のクリーンアップ活動。 ③ 子ども映画会の開催(年3回)、地域の各種教室などへの施設開放の実施(月3～4回程度)。 ④ 保育園や幼稚園、小学校などとの相互交流行事。	①～④計画通り実施。地域ニーズを発掘し、更なる拡大を目指す。
(2)災害対応	A	① 災害対策と事業継続 ア 事業継続計画は、定期的な実施訓練を通じて実践力を高めた。 イ 複合施設全体の総合防災訓練に参加し、他組織との連携・協力に努めた。 ウ 非常食は、備蓄計画を見直し職員も含め1週間、他投光器、蓄電池などの購入。	① 備蓄と備えの強化と必要物品の購入は後回しにせず、被害を最小限に抑えるための取り組みの実践を継続すること。
<b>4 経営基盤強化への取組</b>			
(1)収入増への取組	A	① 各月定員130名が割れることなく目標を達成。	① 引き続き、年間を通して定員の確保に努め実施機関とよりよい関係の維持。
(2)コスト削減への取組	B	① ワークフローを見直し、業務コストの削減に努めた。	① ITツールの導入による無駄な手順や重複作業を削減できる工夫。
(4)施設設備等物的基盤整備	B	① 老朽化に伴い設備面の劣化・突発的な修繕費の負担が予算を圧迫している。 (前年比率80%up)	① 整備箇所は多義にわたるため、安全性に関わるもの、利用頻度が高い部分など優先順位をつけて対応。また、予算化の見通しと財源の確保が課題であり、東京都と十分に協議を行っていく。
(5)組織・システム	C	① 業務の効率化や一貫性を確保するために、業務プロセスや情報管理を標準化・自動化し、ツールや技術を導入することの準備を進めた。	① 2024年度は、準備に留まり完成には至っていないが、2025年度中に運用を開始していく。
(6)感染症対応	A	① 毎月開催する感染症対策委員会で安全確保と感染拡大の予防・防止を最優先としそれぞれの課題に取り組んだ。具体的には衛生管理、環境衛生、体調管理、啓発活動などを実施。 ※年間感染症数 新型コロナウイルス 利用者 21名 職員 12名 インフルエンザ 利用者 1名 職員 1名	① 感染症対策委員会で、入所者・職員の体調変化や近隣地域の状況の確認、予防に努め、感染症発生時は隨時開催していく。
(7)危機管理	B	① 利用者や職員の安全と健康を守るために準備と対応マニュアルをそれぞれ整備した。	① 自然災害、感染症、事故、虐待、それぞれのマニュアルの整備ならびに更新の継続。
(8)情報セキュリティの強化	A	① データを正しく管理し、漏洩や紛失を起こさないようにするため担当者を置き、セキュリティの強化の向上を図った。	① アクセス権、パスワード、ウイルスソフトの管理の徹底をし、マルウェアの感染や情報漏洩などのセキュリティ事故を引き続き未然に防ぐようにしていく。
<b>5 持続可能な社会の実現に向けての取組</b>			
目標3	B	① 介護予防に力を入れ健康と福祉を実現させ、必要なサービスを地域高齢者に提供する。	① PTによるフレイル予防、100歳バンザイ体操など地域高齢者も含めたサービスを提供。 ※SDGsを自分のこととしてとらえる研修は未実施のため方法等を検討し2025年度の課題とする。